

会 報

あべまき

冬春号/2025. 04. 19

Vol. 64 (編集：発行)

豊田市自然観察の森・森先案内人

あべまきの会

豊田市東山町4丁目1206-1

0565-88-1310

abemaki

森の草木染め講座

～ソヨゴの葉で何色に染まるかな～

今年の染め材は、ソヨゴでした。会員の準備として、1/18 ソヨゴの伐採、2/5 ソヨゴの枝から葉のむしり取り、2/15 染液の煮出しと進めました。ソヨゴは他の染め剤と異なり、一度煮出してから日光と空気にさらし、何日かおいてからまた煮出すという染液の作り方をしますが、今回は1回目の煮出し液は捨てて、2、3、4回目の煮出し液を1週間おいて染液としました。

媒染液は、アルミ、銅、鉄で、それぞれ、サーモンピンク、オレンジ、赤味のあるグレーに染まります。染液と媒染液に浸けるのを繰り返すことによって、好みの濃さに染めることができます。

2/22(土)当日は15名が参加されました。作業の合間に、「来年もぜひ参加したい」「次はTシャツを染めたい」と、早くも来年への期待の声が聞かれました。アンケートでは、全員「満足」と答えていらっしゃいました。



あべまきの会は、多くの方に、

豊田市自然観察の森で自然とのふれあいを通じて、

感動や喜びを体験してほしいと思っています！

あべまきの会と一緒に森歩き！

あべまきの会のインタープリターが森を案内します。

●毎週水曜日 午前10時～正午

第3土曜日 午前10時～正午

※ 無料 現地当日受付 午前9時30分～

※ 9時30分時点で 雨天の時→中止



〈アンケートの声〉

○説明が大変丁寧で分かりやすかった。いろいろと相談に乗ってもらえた。

○楽しくお話をしながらの作業でした。良い物ができました。

○ぜひやってみたいと思っていた草木染め。また来たいです。いろいろ試してみたいです。

○今回初めて草木染の体験をしました。会員の皆さんが親切に教えてくださいました。

○きれいな色に染まってよかったです。ありがとうございました。

○良かった点しかなかったです。自分ではできないような植物で染めることができてうれしかったです。

「次回はどんな講座に参加したいですか」という設問にも、草木染と答えられた方が多くいらっしゃいました。ソヨゴの不思議な力、自分で手間をかけて染める作業、会員の対応が、

皆さんの満足感につながったと感じました。

2024 年度 あべまきの会総会

3 月 15 日に総会を行いました。当日は 11 名の参加を得て、会が成立し、熱い議論が交わされました。

以下、24 年度活動概要と 25 年度での取り組みについて述べます。

定例ガイドウォーク(24 年 1 月～12 月分)

実施予定回数 50 回に対して実施回数は 29 回。中止の理由は雨が 10 回、雪が 1 回、暑さが 10 回となっています。来訪者はのべ 315 名、参加会員はのべ 163 名となっています。ガイドご苦労様でした。

毎月の例会には、平均 10 名の参加がありました。

6 月には久しぶりのバス研修を行いました。

11 月の「クリスマスリース作り」や 2 月の「森の草木染め」などの講座には、初めてネイチャーセンターに訪れた方もいました。皆さん熱心に制作に取り組みました。

3 月の「もりもりフェスタ」での「どんぐりストラップ作り」は大好評でした。また「ミニガイドウォーク」も森歩きの楽しさを伝えることができました。

会員の皆さんの力で、多くの方に森の魅力、ネイチャーセンターのイベントを体験してもらうことができました。

2025 年度の活動について

新年度は 14 名の会員でスタートします。会員数の減少ということもあり、役員を少なくしました。代表 1 名(会計監査を兼ねる)書記 1 名(副代表を兼ねる)会計 1 名の 3 名体制になりました。規約改正承認後、代表、書記兼副代表、会計が決まりました。退任の会員 1 名。今まで長い間ありがとうございました

ガイドウォークは、皆さんからの意見で、今まで通り毎週水曜日に実施することになりました。中心的な会員の負担を減らすため、各回の参加会員を例会毎に決めていくことにしました。また、ガイドウォークをより多くの人に参加してもらうために、第 3 土曜日の午前中に新たに実施することも決まりました。例会は、その午後に行います。

また、7・8 月に猛暑が予想される場合は、ガイドを中止することも考えます。

互いに支えあい、楽しい一年にしていきたいと思います。



ハンノキ除去作業報告

1/11 に観察の森スタッフ、とよた自然わくわくクラブ、豊田自然調査の会・虫めがねの方々とともに私たちあべまきの会はトンボの湿地に生える「ハンノキ」を抜く作業

をしました。湿地保全のため、毎年 1 月にハンノキ除去作業をしています。ハンノキはトンボの湿地と上池(うわいけ)の間に生えていて、そこからトンボの湿地に種が飛んできます。



今年は、例年以上に湿地が湿っていて、抜く作業はもちろん、運ぶ作業も大変でした。

その除去作業中、会長さんは湿地にはまり、長靴の中までぐっしょり。抜け出すのにたいへんでした。

皆さん、ご苦労様でした。

自然素材を使ってクリスマス飾りを作ろう



2024年11月27日に実施された「クリスマス飾り作り」では、通常のリースで作成した参加者は7名、ミニツリーは5名、ミニリースは3名で、ミニはおもに子供たちが作成しました。

それぞれのテーブルで参加者は、会員のアドバイスを熱心に聞きながら、楽しそうにクリスマス飾りを作っていました。

今回は、材料をあらかじめ各テーブルに配付せず、参加者が自分たちの気に入った材料を選んだこと、小学校低学年の参加者には、会員がグループガンの補佐を確実にしたこと、保護者が子供たちの作業を気にすることなくリース作りができおり、飾り付けが比較的早く進みました。そのおかげか、ほとんどの参加者が後半のミニ森歩きに参加することができました。

参加者15名、会員10名で、昨年に引き続き盛況でした。



もりもりフェスタ報告

2025年3月8日(土)は小雪の降る中、10時から、「どんぐりストラップ作り」に参加者が続々と入ってきました。ミニガイドウォークの予約も、早くから名前が記入されていました。会員も12名で対応しました。

ミニガイドウォークは、途中雨が降り、午前1回、午後1回となりましたが、総勢22名の参加者。



どんぐりストラップ作りは、参加者が途切れることなく、お昼まで皆さん大忙し。午後、少しお休み時間がありましたが、それでも時間ギリギリまで作業している方がいました。総勢163名。ストラップの出来上がりにニコニコの子供たちでした。

センター実施によるアンケート回答者の7割が、「どんぐりストラップ作り」が「印象に残ったブース」と回答したそうです。



子供の目・二十四の瞳

夏の昼下がり、山間部の小さな小学校のお客さんがやってきた。トンボの湿地での「水辺の生き物観察」と網を使つての「ガサガサ」を楽しんだ。上級生は網の使い方も、何度か やっているうちにだんだんうまくなり、「メダカ、ゲット!!」、「ザリガニ、ゲット!!」大賑わいに。だけど、低学年の子供たちにとっては至難の業、一緒に手を取って網の使い方を教え、一緒に使ってみる。「網の中に動くもの」を発見したときの子供たちの喜びよう、目の輝き、この一瞬が一番うれしい。

隣の方で子供たちがはなしていた。「〇〇ちゃん、なにかとれた?」、「いや〜、何にもとれへんよ」、「僕のメダカあげようか」、「うん、ありがとう、」横で、女先生(おんなせんせい)が「よかったね〜」と目を細めていた。子供たちの小さな手の中で、小さなメダカが悶えていた。けれど、私は何も言わずに じっと見守っていた。私はその時、壺井栄の名作、「二十四の瞳」を想いだしていた。島の小さな分教場のおなご先生(大石先生)と、子供たちの溢れんばかりの「心の通い合い」、子供どうしの豊かすぎるほどの「心のつながり」、いつしか私は遠い昔の映画の場面にひたりきっていた。

そして時代は流れ、いつしかそんな静かな島の分教場にまで戦争の災禍が及んできた。

集団的自衛権、この先10年後、20年後、この日本はどんな道をたどっていくのだろうか。あの島の分教場の子供たちの様に、「今のこの目の前の子どもたちが、望みもしない戦禍に苛まされる様なこと」は絶対ないと言い切れるのだろうか。

私には将来が全く読めない。

子供たちの歓声がひときわ高く響いた。ケースの中でメダカがゆっくり泳いでいた。

イソヒヨドリのお見舞い



「ヒヨドリが物干し竿にとまってる!」とカミさんの声。カーテン越しに窓を見ると、こちらを伺う野鳥が物干し竿にとまり、あたりをキョロキョロ。どうも、ヒヨドリではなさそう。あのつっぱり頭が見当たらない。

そのうち、ピョンピョン横に移動。

「あ〜、干してるタオルに乗った!」

「ヒヨドリじゃないみたいだよ」

しばらく、タオルの上でじっとしている。何を見ているのか。カーテン越しのこちらには気がついていない様子。そのうち、ベランダの床に降りました。

何をするでもなく、キョロキョロして、そのうち、エアコンの排水パイプから出る水を排水溝で味見。



カメラを探していたら、飛び立ってしまうかもしれないので、急いで近くの古いスマホを手に取り、撮影。5分くらいいたでしょうか。あとで写真を見て調べてみると、どうやらイソヒヨドリの幼鳥か雌。近くの大きな公園から来たようだけど、初めてのこと。もしかしたら、コロナにかかった身内を案じて、お見舞いに来てくれたのかな。